

## 2月例会報告

【日時・会場】2002年2月27日(水) 19:00～筑波大学附属高校会議室→～3:30 カリнка

【参加者(会員)】内田正人(B&D) 梅本嗣(博報堂) 浦和俊介(学生) 中塚義実(筑波大学附属高校) 本多克己((株)クラブハウス) 松岡耕自(立命館大学国際関係研究科) 宮崎雄司((有)オフィスアステカ代表/サッカーマニア編集長)

【参加者(未会員)】浅野智嗣(JSA理事長) 松井一乃(自転車ツアー)

注)参加者は所属や肩書を離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩書きはあくまでもコミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定するものではありません。

### 2002年(以降)のサロン2002を考える(2)

1月に引き続き、2月の例会も表記テーマで行われた。参加者が少ないのが残念だったが、事前に意見を下さった方もおり、議論は深められた。メールにて事前に意見を寄せて下さった方は以下のとおり。いただいた意見は資料として配付・回収した。

本多克己、川井寿裕、涌田龍司、笹原勉、広瀬一郎、宮崎雄司、梅本嗣、内藤隆、熊谷建志、長岡茂、高橋義雄、高崎康嗣、小出正三(会員外)、浅野智嗣(会員外) 本報告は、当日の資料と参加者の発言(一部カリнкаでの議論も含む)をもとに再構成し、参加者のチェックを経て公表するものである。

### <目次>

#### <1>「サロン2002: Ver2002～」について

1. メーリングリストについて(涌田龍治)
2. 会計について
3. 2002年度会員募集について(案)
4. サロン2002HP「サロン2002の概要」から「"志"会員"活動"「規約」(修正案)

#### <2>「ワールドカップ・プロジェクト2」の提案(松岡耕自・中塚義実・梅本嗣他)

#### <感想・意見(中塚義実)>

#### <1>「サロン2002: Ver2002～」について

1. メーリングリストについて(ML担当:涌田龍治-資料のみ)

#### 1) 現状

Salonのメーリングリストは2002.2.27現在、メンバーが48人となっております。今年度(2001年度)は昨年度と比べても、やや活用度が低かったように思います。

## 2) 課題

メーリングリストを活気付けるのに困難な問題は、

<1> 込み入った議論がなかなかしにくい点

<2> 情報発信がほとんど中塚氏の BCC メールによって為されていることなどが挙げられると思います。

活気付けるための提案の一つは、

<1> 立ち上がったプロジェクト遂行に必要なお手伝いの方を募るツールとする。

「どこそこで、何々を、いついつにするから、参加してみませんか？」という内容の情報発信がメーリングリストには適切かと思います。興味のある人を"募る／紹介する"のには便利かと思います。

<2> Salon での議論のテーマをメーリングリスト上で延長して論じる。

参加者の方が比較的少数 48 人となっているので、Salon 上で問題となったいくつかの宿題的な問題のうち、いくつかを取り上げて議論していく、というのはいかがでしょうか？

★この場合、特に注意すべきは、表現上の問題です。

web 上での掲示板の議論と同様に、「ほとんど人を中傷しているのでは？」と思われる意見・表現も出てくるとされます。それに対して、メンバーがいかに議論の本質を見抜いていくのかが問われると思います。

他にも、おそらくいろいろな提案があると思われます。

## 3) 管理面

メーリングリスト管理は、現在のところ、困難な作業ではありません。

ただし、現在契約しているカームコンピュータ株式会社では、6,300 円／年が費用としてかかっています。メーリングリストの活用度からするならば、やや割高感があります。

ただし、他のフリーのメーリングリストに移行する場合、メーリングリストの投稿メッセージに不要な広告が掲載されます。また、他のフリーメーリングリストでは最近猛威を振るったコンピュータウィルスが自由にメーリングリストを行き来することもあります。

現在のメーリングリストでは、管理者（涌田）の元に、転送される仕組みになっています。（これだけが、おそらく唯一面倒な管理上の仕事ではありますが・・・）

また、希望者の中には、「メーリングリスト希望」とだけ書いて、管理者（涌田）に送付してくる方がいらっしゃいます。この方が会員の方かどうかはわからず、困るときがあります。

(以上ML担当・涌田)

#### 4) 提案 (中塚義実)

現状報告を受けて、「2002年度会員は全員、サロン公式MLに加入する」という案について議論した(役員会レベルではおおむね合意されている)。提案の主旨は以下のとおり(役員及び各担当へのメールより引用)。

##### 2002.2.20 付 (中塚義実→役員及び各担当へのメールより)

(前略) 一人ひとりが情報の発信者となるため、「2002年度会員は、全員、サロン公式メーリングリストのメンバーになる」としたいと思いますがいかがでしょうか。これなら宮城嶋さんが提案していた「3～4ヶ月で一巡するようなかたちで会員に近況報告を義務付け、メールで配信する」というアイデアもこうすれば可能ですし、次につながると思います。

また、役員会のML、プロジェクトごとのMLと、全員が加入する公式ML以外にもいくつかあればいいと思います。ただ、ご存知のように中塚はこの分野に明るくありません。どうすればMLを立ち上げることができるのかも含めてアドバイスください。

HPは会員以外への情報発信の場という性格がより明確になると思います。

「研究会案内など、会員に伝えたい情報がある場合、今は中塚経由で伝達しているが、本来は個々の会員が情報発信者であるべきだろう。そのためにも全員が加入する公式MLは祖のためにも必要なツールである。あるテーマについてより深い議論をしたい場合はプロジェクトを立ち上げ、そこでプロジェクトのMLを作って議論してほしい」(中塚)との補足説明を経て議論になった。

「HP上に会員の掲示板を作ればいいのか」という意見から、掲示板とMLの位置づけが一つの争点となった。「掲示板に比べてMLが優れているのは添付ファイルを送ることができる点だけ」「MLは情報を取りにいかなくても送られてくる。掲示板は管理が大変」「FAXしか持っていない会員はどうするのか」など様々な意見が出た。掲示板についてはあとでワールドカップ・プロジェクト2の議論で再び出てくるが、「登録した人のみ書き込める掲示板」をつくることで情報管理の煩わしさを軽減することができるのではということになった。MLについては「何を載せていいのか判断が難しい。

ショップのセールス情報などはなじまないようにも思うが、ではどういう情報ならいいのか」という懸念や、「1日に100件もメールのやりとりをするような人もいる。サロンMLに自動的に入ることで情報過多になって困る人もいるのではないか」との意見もあった。「とりあえず全員加入でスタートして、どうしても困る人が出たらその時に意見をもらって検討しよう」とした。「これは大きなハードルとして設けるのではなく、あくまでも会員相互にお知らせが簡単にできるようにとの主旨である」ということである。

なお「月例会」は決定機関ではないので、最終的には総会あるいは役員会での決定に委ねる。

## 2. 会計について（川井寿裕－資料のみ）

前回に引き続いて会計中間報告が為された。

現時点での入会意思表示者は 142 名、うち 14 名はいまだに会費の納入がない。「前回の中間報告（1/29）後、未納者 22 名に対し、はがきにて督促状を送付した。その結果、8 名から納入があった。今後、未納者に対する措置としては、引き続き 2 回目の督促状をはがきにて送付する予定」とのこと。 これを読んでいる未納者の方、至急振り込んで下さい。

## 3. 2002 年度会員募集について（案）（中塚義実）

2月 28 日付メールで会員及び関係者に送付された「2002 年度会員募集について」を議論した。2001 年度からの変更点は、

- 1) 冒頭に"心構え"に関わる文章を入れた
- 2) 募集期間を「3月 1 日～3月 31 日」とした（昨年度は3月 22 日～4月 13 日）
- 3) 「会費納入に関する注意事項」を加えた ことである。

また、「会員募集の際にワールドカップへ向けての関わり方を書いてもらえば、いくつかの"物語"が集まる」との意見があり、自己PRの部分に反映してもらうこととした。

## 4. サロン 2002HP「サロン 2002 の概要」の一部見直し（中塚義実）

正式には総会または役員会での議決を経ることとなるが、見直しの方向性が確認された。

○"志" → 変更なし

○"会員" →

- ・年度単位で更新ということを冒頭に持ってきた
- ・登録申請の手順を、本年度の方法にあわせて一部書き換えた
- ・会員のメリットの「3) 希望すれば公式メーリングリストに参加できる」の「希望すれば」を削除し、「4) プロジェクトの発起人になることができる」を加えた
- ・会費の使途の「月例会参加者は～」のくだりに、「会員でなくても参加可能ですが会員の紹介が必要です」を加えた。

○"活動"

- ・「プロジェクトメンバーは会員でなくてもかまいませんが、会員の紹介が必要です」を加えた
- ・お出かけサロンを明記した
- ・情報発信のところで「全ての会員は公式メーリングリストに登録される」ことを明記した

- ・ホームページの内容を明記した

#### ○"規約"

- ・附則3…「2000年度の代表は～」を「2002年度の代表は～」とした

#### <2>「ワールドカップ・プロジェクト2」の提案（松岡耕自・中塚義実・梅本嗣他）

2月14日にサロン有志（梅本、笹原、北岡、松岡、中塚）とJSA（日本サポーター協会）代表（浅野智嗣氏）が集まって「ワールドカップ・プロジェクト2」の立ち上げについて議論した。それを踏まえて、松岡耕自作・中塚義実修正による第1案と、さらに手を加えた梅本嗣作の第2案が提示され、議論した。前者が「会員向け」の立ち上げ宣言であるのに対して、後者は「外部向け」の告知の意味を含めたものとなっており、プロジェクト立ち上げ宣言の位置づけについても意見交換された。

いずれの案も、表現は異なるが、以下のねらいを持つプロジェクトにしようという点では一致している。

- 1) ワールドカップに関わるあらゆる"物語"を集める
- 2) "物語"の主人公たちのネットワークを構築する

そのために、

- 1) サロン2002のホームページに掲示板を設けて"物語"を集める、
- 2) ワールドカップシンポジウムを開催して顔を突き合わせる機会を設ける
- 3) 報告書（または出版物）を作成してより多くの人に公開することを活動内容とし、さっそく動き出すことになった。

「物語を集めるには"求心力"が必要」「実際に活動している人を書いてもらうようなスタンスでは"物語"は集まらない。サロンの会員が、自分の身近にある"物語"を取材して書き集めることが必要」「インターネットの特徴として"即時性"がある。掲載された"物語"は即、他者には参考事例になるはず。具体的な行動を促すのためにもインターネットを活用するのはいい」など、様々な意見が交わされた。「ネット上だけでなく、実際に顔を突き合わせる場は必要」ということで、シンポジウムと懇親会をパッケージにしたイベント開催が提案された。「昨年横浜でシンポジウムをやったように、毎年7月には、ワールドカップに関わった人や組織が集まる場を設けたい」（中塚）。

話はカリンカでも続き、どんな"物語"があるかということでは「在日外国人（特に韓国の方）にとってのワールドカップをもっとクローズアップする必要がある」「そのことをテーマとするシンポジウムを5月の連休中に大阪で開催できないか」「5月の連休中に東京・神宮にて10開催都市イベントがある。これにサロンとして参加できないか」など、5月の連休が一つの目標であることが確認された。また、JSA浅野氏より、「6月30日に横浜で、ワールドカップ打ち上げオールナイト大宴会を、サロン2002の主催でやってもらえないか」との打診もあり、皆大いにやる気になった。

梅本氏からは、「プロジェクトとは、定例的・固定的に行う事業ではない、という前提の性格づけがあります。本件もそれに該当するので、プロジェクトだと思います。で、プロジェクトの立案には不可欠な要素があります。＜1＞目的（大義）、＜2＞プロジェクト目標（具体化した成果イメージや指標）、＜3＞活動内容、＜4＞実施期間・工程、＜5＞メンバー・役割、＜6＞予算計画（収支計画）」との、プロジェクトに関する本質的な提案があらかじめメールにて行われていた。

これらを受けて3月14日に、都内でワールドカップ・プロジェクト2の会合を開催することとなった（詳細は別途）。

<感想・意見（中塚義実）>

「ワールドカップ・プロジェクト2」、「6月30日の大宴会」。おもしろそう！！

いろんなことに首を突っ込んで"当事者"になっている私には時間と身体が絶対的に不足しているが、これは何とか実現させたいと思った。

ここでは、J S A 浅野氏に送ったメール（2.16付）をもって私の感想・意見とします。

先日は（注：2月14日のこと）遅くまでありがとうございました。最後居酒屋へ繰り出せなかったのが残念ですが、有意義なミーティングだったと思います。

メール拝見しました（注：2月15日にいただいたメールの返事です）。私も「サロン2002の方向性」を考える上で大いに参考になりました。

先日の会合を、「サロン2002に何ができるか」という観点から整理すると、「ワールドカップ・プロジェクト2」として「ワールドカップに関わる様々な"物語"を集める」こと、そしてそれを通して、様々な人や組織をつなぐネットワークをつくっていくことだろうと考えました。

「プロジェクト1」のシンポジウムでは運営側、ボランティア側、市民団体側の事例を一つだけ紹介しました。報告書ではさらにいろんな事例を取り上げました。しかし、本当はもっともっと、いろんな地域の、いろんな人々の物語があります。

98年大会までは、ワールドカップで伝えられたのは「選手と指導者の物語」がほとんどでした（賀川浩さんの"旅行記"は別）。98年の予選時では、「サポーターの物語」がインターネットで集められ、『もう一つのワールドカップ』という出版物になりました。2002年大会にどれだけの人が関わったのか、そこでどんなことが行われたのか、これらの物語を何らかの形（掲示板？ML？シンポジウム？報告書？）で集約したい。それは「準備段階」においては、互いを刺激しあういい材料になるだろうし、「大会期間中」は大会そのものの盛り上げにつながるし、そこでできたつながりは「大会終了後」の新しいパワーとなるでしょう。

こういう分野こそ、いろんな人間がゆるやかに関わる「サロン2002」の得意分野だと思いますし、ネッ

トワークそのものが「サロン 2002」と言うこともできるかもしれません。そして関わっている一人ひとりが「サロン 2002」であると言えるような「当事者意識の高いネットワーク」になればいいなあと思っています。

ちょうど今、サロン 2002 のあり方についての議論をしているところなので、こんな文章になってしまいました。ファンヴィレッジとサポーターWEBについて、あと5月の連休の話も、思いついたらメールします。

参考までに、サロン 2002 通信を別便でお送りします。次回の月例会を2月27日（水）19:00から予定しているので、お時間あればいらしてください。カリンカだけでもどうですか？ また飲めるときを楽しみにしています。

以上